



higashiyamato no
ひがしやまとの



こくさい こうりゅう
kokusai koryu



「ニカラグア(中南米)・ウガンダ(アフリカ)通信」

～青年海外協力隊員からの活動報告 Vol.3～

2016年 12月発行

こんにちは！青年海外協力隊の島崎琴子
(ニカラグア)と松田薫(ウガンダ)です。

私たちの任期も1年が過ぎ、活動が本格的に
なってきました。残り短い滞在を、思いっきり
楽しみたいと思います！

さて第3回は【子どもの生活・現地の学校】
について、みなさんにお伝えしていきます！



ウガンダでは、赤ちゃんは腰に紐をつけ、裸で過ごしています。

¿Qué te parece? (ケテ パレセ?)



東大和市の皆さんこんにちは！

仲原出身の島崎琴子です。ニカラグアは雨期で午後はスコールのような雨が激しく降っています。ケテ パレセ？は「あなたは思う？」という意味で、ニカラグア人の気持ちが知りたいときによく質問しています。相手の気持ちを聞くことは、特に言葉が上手く話せない場所で大切です。でも最近は自分の気持ちもグイグイ伝えていきます(笑)

さて、今回はニカラグアの学校や子ども達の生活についてご紹介します！

■ニカラグアの小学校はどんなところ？

皆さんはニカラグアの国旗を知っていますか？主に白と青で構成されていますが、小学校もニカラグアカラー!!!!1階建てで、教室は2～4つあります。ニカラグアの小学校は1年生から6年生までで、小学校の横に幼稚園もあります。6年生までであるのに教室が2つ…つまり、3

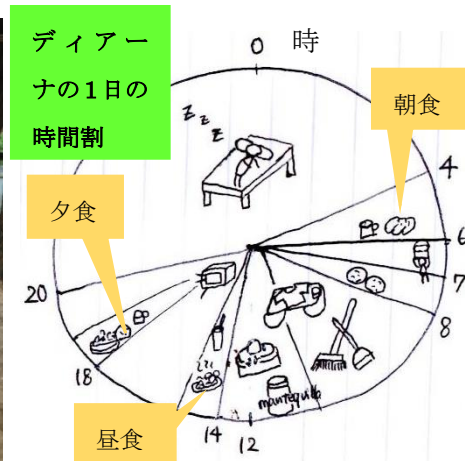
学年を一人の先生が教えています！1つの教室には25人ほどおり、同じ数学の授業を3学年同時に勉強しますが、教科書と内容が別々です。先生の説明を聞いた後に、先生の出した質問の答えを学年ごとにグループになって考えます。教科書も1人1冊ないこともあり1つの教科書を2人で使いながら、教科書から答えを探します。違う学年が答えを考えている間、先生は他の学年に説明して、質問をします。

10時くらいにご飯タイムがあります。子ども達のお母さんが、順番に各家で作り、持ってきてくれます。それを食べた後はもちろん！元気いっぱい遊びます。まるで日本の「中休み」ですね。左下の写真は、男の子たちがビー玉で「チボーラ」というゲームをしています。どうやら、円の中に転がしてうまく入った人が勝ちのよう…！でももっとルールは複雑！鬼ごっこや塗り絵、お友達とおしゃべり…みんな自由に遊んでいます。



■ディアーナの1日

ディアーナは15歳の女の子。2人の弟と1人の妹がいて、4人兄弟。お父さんはコスタリカという隣の国へ出稼ぎに行っています。おばあちゃんの家が隣にあり、家も広いのでここで寝て、おばあちゃんのお手伝いもしています。すらっとしているけど、力持ちで働き者！本当なら、中学校に通っているはずなのですが、家でのお手伝いとお金の問題で行けていません。近くに中学校はないので、近くの中学校までバスで通わなければなりません。また、教科書や文房具、制服などお金はたくさんかかります。彼女のお父さんがコスタリカから、必要な物やお金を送ってくれますが定期的ではありません。



ディアーナの1日は、朝は4時から始まります。6時から隣の町へ、御遣いへ。7時からトルティーヤ作りを手伝います。12時前後はチーズやバター作りを手伝います。基本的に、お母さん・おばあちゃんのお手伝いをしています。午後はテレビをみたり、兄弟たちと遊んだりして過ごしています。私が訪問するといつも付いてきてくれる優しい彼女です。

中左) シャワーを浴びるためにタンクに水を貯めているところ。水が出る蛇口は家に1つしかありません。もちろんシャワー室には蛇口はないので、貯めたタンクから水を小さな桶を使って利用します。

中右) プラスチックでできた駒で遊んでいる弟。

下) キッチン。おばあちゃんがトルティーヤを焼いています。料理する時は、薪を使いかまどを利用するのが一般的です。かまどで作るご飯はすごく美味しいです！ニカラグアには下水道施設がありません。利用した水は近くの土に捨てます。



The pearl of Africa

みなさん、こんにちは! ウガンダの松田薫です。日本はもうそろそろクリスマスですね。ウガンダは相変わらず、毎日暖かく過ごしやすいです。クリスマスが近づくにつれ、近所の子どもたちは「お菓子ちょうだい」と大人たちに言うことが多くなってきました。ウガンダのクリスマスは、家族が集まり、いつもより少し料理が豪華になります。日本にいるみなさんは、どんなクリスマスを過ごすのですかね。さて今回は、ウガンダの学校の様子・若者たちに焦点を当ててみようと思います。

◆ ウガンダの学校の様子 ◆

ウガンダは、小学校7年間、高等学校6年(日本でいう中学・高校に当たる)が義務教育となっています。経済的に余裕のある家庭は幼稚園から大学まで子どもを通わせています。しかし、ある小学校の1年生のクラスには10歳くらいの子がいて、小学1年生の授業を受けています。友人のウガンダ人は高等学校を終了後すぐに、大学へ行くお金を工面できないので、村で1年程農作業していた人、また大学へ入ったが授業料が払えず実家に帰り、学費を貯めている人など、みんな様々な事情があります。

◆ ある学校の卒園式の様子 ◆

2015年11月27日、この日はカムリ県にある幼稚園・小学校で行われる、幼稚園生の卒園式。総勢85人の生徒が通っている、低所得者向けの学校です。小学生の授業はお休みでしたが、卒園式のために学校に集まっていました。12時から卒園式を行うと校長先生が言っていましたが、保護者が集まりだしたのは午後3時。これが、ウガ



先生のあとについて、いざ卒園式へ!

ンダタ

イムです。まず、一列に並び、教会に入場。卒園児たちは黒いガウンとハットを身に着けています。拍手で両親、地域の人たちに迎えられた後は、小学生からの出し物です。家庭内での虐待についての劇や、何曲もの歌やダンスで会場は盛り上がりました。そして、お待ちかねの卒業証書授与です。園長先生が一人一人の名前を呼んでいきます。一人ずつ正面に出て、園長先生



小学生からの歌のだしもの。

から証書を受け取ります。そして、ここで両親か園児に卒業のプレゼントを渡します。その後、園児・両親・園長先生の3人で写真を撮る。卒園式はこのような流れです。多くの園児はプレゼントに、飴玉などのお菓子や人形をもらっていました。最後には、町長さん、先生方、園児全員でのケーキカット！先生も園児たちもとても楽しそうにしていました。



大興奮のケーキカット。前列卒園生、後列先生たち

◆ ある若者のストーリー ◆

小学校教師の給料事情

この学校の先生たちの給料は毎月 UGX120,000 (約 3640 円) です。休憩中には甘い紅茶・軽食が無料で提供されます多くの生徒の親が学費を滞納している場合は、先生への給料も滞納され、時には2か月間も給与が払われないこともあります。そのような状態でも、先生たちの家族も、農業などをして何かしら働いているので、何とか生きていけるのです。



彼女の名前はサラ、22歳。セカンダリー(高等学校)4年の時に、学費が払えないため学校を退学した。彼女の父親はエイズでなくなっており、母親は再婚して、漁業で生計を立てながら違う場所で暮らしている。サラは現在、母親からの仕送りをもらいながら、妹ナカトと2人で借家暮らしをしている。「弟、妹がエイズにかかっている。お金がないから薬が買え

ない。」と言いながら、一日中家の前に座りながら、働く機会を探していたというサラ。しかし、さつまいもチップス販売を始めてから、毎日が充実してきたという。朝7時前に起き、掃除・洗濯する。ひと段落ついたら、チャイを飲みながらチップスを作る。チップスを販売したり、袋に詰め小売店へもって行く。1時頃から昼食を作り始め、昼食後は自分の自



時間を過ごしている。職がなく嘆いてばかりいる若者も、きっかけ次第ではサラのように変わることができるのではないかと、サラと一緒に過ごす日々を通して思いました。

左上)袋詰めしたチップスを手に持っているサラ

右中)チップスを作っている様子

左下)妹と雑談しながらお客さんを待っている様子

ニカラグア探検！



幼稚園の子供たち。ニカラグアの伝統衣装を着て、これから太鼓を演奏します。



小学校 5 年生と 6 年生クラス。月曜日の朝は国歌斉唱から始まります。



中学校の創立記念日。楽器を演奏しながら踊って、街の中を行進！



カーボウイの日。女の子も伝統衣装やブーツにハットを被って馬に乗ります。



私は学校の先生と一緒に暮らしています。子供たちの通信簿をつけている所。



左の先生のお手伝い。1 年生が数字を覚えるためのポスターを一緒に作製。

ウガンダ探検！



ご近所さんに新しい家族が加わりました！産休は3か月間だそうです。



卒園写真を取っているときの様子。周りの人が笑わせたりします。



学校から帰った後の一コマ。この後、お母さんに水汲みを命じられていました。



まだ学校に行っていない姉妹。いつもお母さんのお手伝いをしています。



小学校の休み時間の一コマ。学校近くにスナックを買いに来ていました。



マーチソン国立公園で2頭の像と遭遇！至近距離まで来て、迫力満点でした！

< ミニコーナー >

KAIGAIごはん

このコーナーでは、私たちの任地で食べられている現地食を紹介します。今回はウガンダの面白い現地食“ピラウ”です！



現地のレストランに行けば、必ずあるウガンダ版炒飯“ピラウ”。トマトや玉ねぎ、肉を炒めた後に、生米、スパイス、油と少量の水を入れ、炒めます。葬式やお祝いごとがある時など、いつもより豪華な食事という感じ。お店によって、スパイスの量も違うので、任地のおいしいピラウ屋さん探しも面白いですよ！

連絡先

島崎 琴子（しまざき ことこ）
ニカラグア



第6小学校出身

shimazakikk@yahoo.co.jp

松田 薫（まつだ かおる）
ウガンダ



第2小学校出身
第4中学校出身

matsudakaooru@gmail.com

ご感想、ご意見、ご質問等ございましたら、ご連絡ください。

次回ついに最終回！第4号は2017年7月発行予定です。お楽しみに！

編集・発行 東大和市 子ども生活部 市民生活課 市民協働係
東大和市中中央3丁目930番地
電話 042-563-2111 内線1711